

「自然体験活動指導者（NEAL リーダー）養成事業」事業報告書

1 事業実施の背景

国立青少年教育振興機構の平成 28 年度事業方針では「青少年教育指導者等の養成・研修事業の実施」として、「青少年のための様々な体験活動を推進する青少年教育指導者等を対象とする養成・研修事業を実施する」こととしており、今年度から国立青少年教育振興機構全施設において、自然体験活動指導者養成事業の基礎的資格である NEAL リーダーの講習を行うこととした。

当交流の家では昨年度の試行実施に引き続き、2 回目の実施となる。昨年度は秋の実施であったが、今回は地域の特性（雪）を生かした自然体験活動の展開を推進することを一つの目的とし、冬季の事業実施を計画したものである。

2 事業趣旨

青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる指導者を養成する。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大雪青少年交流の家

4 後援 北海道教育委員会 北海道小学校長会 北海道中学校長会 北海道高等学校長協会 上川管内教育委員会連合会 美瑛町 美瑛町教育委員会

5 事業概要

- ・期日 平成 29 年 1 月 10 日（火）～ 1 月 12 日（木）（2 泊 3 日）
- ・会場 国立大雪青少年交流の家
- ・対象 国公立・財団等の青少年教育施設職員 青少年教育に係る指導員やリーダー等 都道府県・市町村の社会教育主事や社会教育担当職員 教職員や民間団体等で指導に携わる者やそれを目指す大学生等（18 歳以上）
- ・募集 30 名
- ・講師 環境教育体験クラブ「ちびっこ大将のくにクラブ」代表 二杉 寿志 氏
北翔大学准教授 杉岡 品子 氏
NPO 法人どんころ野外学校ガイド・インストラクター 新野 和也 氏
北海道教育大学岩見沢校准教授 山田 亮 氏
北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷 弘志 氏
国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊

6 目的の達成指標（アウトプット）

- (1) 参加者数（養成者数）
- (2) 参加者の満足度
- (3) 指導者活動への意欲、冬季体験活動の満足度

7 広報

チラシ配布は 1 1 月 1 8 日（金）に郵送を行い、広報期間の目標である 5 週間前を確保し、北海道内全市町村教育委員会、北海道内全大学、上川管内小学校・中学校・高等学校等にチラシを配布した。

しかし、申込期間当初の参加申込数の伸びが悪かったため、追加対策として、①職員の知

人等を通じた広報、②昨年度に引き続き、環境教育に関する団体の環境保全活動、協働の取り組みを支援している団体「EPO 北海道」を通じた関係 NPO 法人への広報、③機構本部教育事業部の協力を得て、日本キャンプ協会等関係団体のホームページ・メールマガジンでの広報、④北海道内教育局の社会教育指導班主査を通じて管内の市町村教育委員会社会教育主事等への追加募集、を行ったところ、民間団体や、本州（岐阜県）からの申込、道内市町村教育委員会関係者の申し込みがあった。

8 参加者人員・類型

参加者 20名（定員比 66%）

定員に満たなかった理由としては、①実施時期は冬休み中であり青少年教育施設では青少年を対象とした事業を実施していることが多く、青少年教育指導者の参加が得られなかった、②既に授業を開始している大学が多く、学生の参加が伸びなかった、の2点が挙げられる。

しかしながら、事業を展開している青少年教育施設においても NEAL 事業の重要性・職員のスキルアップのために1名でも派遣を考えていただけるように、NEAL 事業の趣旨について引き続き北海道教育委員会、北海道青少年教育施設協議会に周知し理解を得ていく必要があると考える。

参加者内訳：

- ① 男女別 男性 16名、女性 4名
- ② 年齢 20代：11名、30代：3名、40代：4名、50代：2名
- ③ 職業 青少年教育施設：5名、市町村教育委員会：7名、教員：1名、学生：2名、民間事業者：4名、NPO職員：1名

9 事業日程・内容

(1) 日程

		1230	1300	1400	14:15	1545	1600	1730	19:00	2200
1/10 (火)		受付	開講式 ガイダンス	休憩	青少年教育における 体験活動	休憩	対象者理解	夕食	休憩	
7:15 7:30 9:00		1200 1300				1900 19:30		21:00		
1/11 (水)	つどい 朝食	自然体験活動の安全管理		昼食	自然体験活動の技術 (野外炊事による夕食兼)			休憩	自然体験活動 の指導	休憩
7:15 7:30 9:00		1200 1300		1330	1400	14:30	1500			
1/12 (木)	つどい 朝食	自然体験活動の特質		昼食	まとめ	認定 試験	諸連絡	閉講式		

(2) 概要・運営のポイント

今年度は、自然体験活動指導者養成事業としての一般知識等習得をさせることに加えて、①北海道の子供達に体験活動を普及啓発するため、北海道の自然環境の特質である、「冬季・雪上」を題材に行い、今後、自然体験活動の展開にも役立つこと、②参加者自身が地域に戻り、日常の環境の中で体験活動を実践することによって指導者としての一歩を踏み出せる意識付けとすること、の2点を目的とし、冬季講習を計画したものである。

活動のねらいを形にするため、講師との事前打ち合わせにおいて、①冬季活動を題材に、できる限り外での演習を行う（講義と演習のバランス）、②地域ですぐに実践できる

アクティビティを取り上げる、③資格取得が目標ではなく、現場での実践・指導者の経験を踏むことで子供達に体験活動を普及させることが最終目標であることを意識付ける、以上3点を重要視していることを講師に伝え、講義内容を構成した。

(3) 各プログラム内容

①講義「青少年教育における体験活動」(90分)

【講師：国立大雪青少年交流の家所長 阿部 豊】

青少年の現状、特に北海道における現状と課題、青少年教育を取り巻く社会や地域的情勢などについて、講師の教育行政等での経験と事例、学力学習状況調査の結果、国立青少年教育振興機構が行ってきた調査研究のデータを取り上げながら、わかりやすく説明が行われた。

特に北海道内の後志管内のある町における体験活動が一つの要因となって体力とともに学力も全国平均より上になった事例について、参加者は興味を持って聞き入っていた。

参加者からは「知力、体力、倫理観のバランスが大事で家庭や地域のつながりが必要で重要なんだとより感じた」、「北海道の子供たちの現状というものが学力学習状況調査を基に分析されていて、その上で体験活動というものが、どのように大事であるかがわかってきました」等の声が聞かれ、なぜ体験活動が必要であるのかの基礎・基本を理解させることができた。



②講義・演習「対象者理解」(90分)

【講師：北翔大学准教授 杉岡品子 氏】

体験活動の参加者となる青少年の理解について、年齢・世代別に見られる特徴などの一般的理解、個々の性格や特別に支援を要する事項などの個別理解についての説明があり、事前に個別理解についての情報を得ることや、ケースに応じた具体的な支援方策、また、人に接する見方には人それぞれの傾向があり、自身の傾向を理解した上で参加者に接する必要があること、対象者を理解することは自然体験活動の安心・安全な展開につながることを学んだ。



③講義・実技「自然体験活動の安全管理」(180分)

【講師：北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷弘志 氏】

自然体験活動を展開するにあたってのリスクをマネジメントすることの重要性、自然体験活動ではリスクを100%除去することは難しく、リスクマネジメントによってダメージを最小限に抑えること、安全と危険のバランスを取り体験活動による効果を確保することなどについて説明があった。続いて参加者は実際のフィールドに出て、スノーシューハイクを体験し、冬季の雪上活動におけるリスクに気づき、リスクの発見・把握に普段から感性を磨く必要があることを演習を通して学び、最後に、救急救命についての実習を行った。



参加者からは、「自然体験活動を行う上で最も頭に入れておかないといけないことであり、最低限の知識として押さえておかなければいけないことを学んだ」との声があり、安全に自然体験活動を実施する上での事前準備、装備や技術について理解を深めた。

④講義・実技「自然体験活動の技術」(360分)

【NPO法人どんころ野外学校ガイド・インストラクター 新野和也 氏】

自然体験活動の技術について、冬季屋外活動として、メインをイグルー作りとし、生活体験・炊事活動なども一部取り上げて体験した。体験活動プログラムの展開には、目的・趣旨を明確にした上で、導入(つかみ)→本活動(展開)→まとめ、の構成があることを実技を通して学んだ。

実技では、長時間(6時間)にわたる冬季屋外活動での実技であることから、健康管理のため室内休憩をとりながら、冬季活動での装備の説明、ロープワークの実技なども取り上げ、野外活動の実技を習得できるように展開した。

屋外が暗くなる17時過ぎには各班(3班)ごとにイグルーを完成し、居住空間での炊事を体験した。

まとめでは、各参加者が印象に残ったことを言葉で表し、班ごとの活動を体験する中で協力しながら目標を達成することの満足感も体験した。



⑤講義「自然体験活動の指導」(90分)

【北海道教育大学岩見沢校准教授 山田 亮 氏】

講義の最初に講師から、自然における体験の意義について、「現代において人類が自然と離れて暮らし、人間としての生活ができていないのではないか」、「自然体験は人間が持つ本来の力を呼び起こすことが可能である」問いかけがあり、話し合った。

自然体験活動の指導方法は、同じプログラムでも、そのねらいによって、内容・フィールドが変わってくること、目標・ねらいの設定は、指導者の思い・社会のニーズ・できること・できないことの判断などを分析することが必要であることの説明があった。

まとめとして、本事業の重要なキーワードとして設定した、指導者として、継続的な研鑽を積む必要があること、現代の社会・日常と自然体験活動のつながりを考えることが重要であることの話があり、参加者に指導者としての一步を踏み出す意識付けを行うことができた。



⑥講義・実技「自然体験活動の特質」(180分)

【環境教育体験クラブ「ちびっこ大将のくにクラブ」
代表 二杉寿志 氏】

講習も3日目を迎え、いよいよ最終日となり、指導者としての立ち位置で活動現場を意識する日として位置付けを行い展開した。

実際にフィールドに出て活動の楽しさを体験し、「自然を見る・体験する」視点を持たせることを意識し講義を構成した。地域にある自然環境を活用して日常の中で体験活動を行うことが繰り返し活動を体験できることにつながり、「情報知」ではなく「体験知」を増やすことができ、その効果を深めることができること、地域の自然環境を理解することで、日常生活における体験を深められることについて、アクティビティの実技を交えながら理解を深め、指導の現場への意識付けを行うことができた。



9 参加者アンケートから

(1) 総合的満足度

- ・満足 20 100%
> 「4 満足」が 100%となった。

(参加者の声)

- 冬バージョンすごくよかったです
- 2泊3日の研修が短く感じるほど楽しく実りのある研修でした
- 「自然体験活動」が何かを体験できました

(2) プログラム

- ・満足 18 90.0%
- ・やや満足 2 10.0%

(参加者の声)

- 夏と冬の違いが判ってよかった
- 講義だけでなく実技もあることでより具体性のある研修内容だったと思います
- 少しハードで大変ですが。現実・実情に合ったものだと思います
- 体力的（年齢的？）に少しきつかった

(3) 事業運営

- ・満足 19 95.0%
- ・やや満足 1 5.0%

(参加者の声)

- スムーズでした
- 親切でわかりやすかったです
- 備品チェック不足(バーナー、スノーシュー両足そろえる)
 - 注釈:バーナーガスが厳冬期対応出なかった。→予備の厳冬期に変更して対応。
 - 注釈:スノーシュー左右をそろえて準備したが、保管場所から右右・左左で持参してしまった人がいた

(4) 職員の対応

- ・満足 20 100.0%

(参加者の声)

- わかりやすく接しやすかったです
- 親切でわかりやすかったです

(5) 開催時期

- ・冬に事業をする団体は限定的な様子でしたが、こういう機会に学んで新たに事業を冬に行おうとする方も出てくるのではないかと思います(青少年教育施設職員)

- ・冬の北海道ならではの内容で楽しかったです
- ・いいと思います
- ・雪の体験は貴重だし楽しかったけど美瑛までの移動が大変でした
- ・厳寒期の実施でご苦勞をおかけしました。ありがとうございました
- ・金土日や土日月など週末の開催であればより参加でき易くなるのではと思いました(学生)
- ・北海道の特徴、強みを学ぶことができてよかった。閑散期と嫌悪されがちな冬の活動を進めていきたいと思った
- ・気温、天気ともに大雪らしさが出てよかったと思います
- ・あまりこの時期に事業がなく参加しやすい時期でした。またこの時期だからこそできるアクティビティを体験できたことが良かったです(社会教育担当職員)
- ・小・中学校の冬休み期間ということで受けに来やすかったです(個人的には)
- ・寒さも環境も初心者にはちょうど良かったと思います(教育委員会放課後担当)
- ・他施設での同様のイベントが連日続きで重なっているので日程調整などでできれば参加者も増えるかもしれない
- ・冬の活動は良いが休みが取れる人とそうでない人がいるため、参加者を募るのは難しいかもしれない
(青少年教育施設職員)

問5 プログラムについてお答えください。

<1/10 13:30～「ガイダンス」>

4 満足	20	100.0%
3 やや満足	0	0.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

○常に勉強するという学びの姿勢を忘れずに資格を取るだけで終わらずいろいろな事に耳を傾けていきたいと思います。接しやすい人が多くて安心しました

- 自己紹介や知り合う時間がもう少しあってもいいのかなと思いました

<1/10 14:15～ 講義「青少年教育における体験活動」>

4 満足	19	95.0%
3 やや満足	1	5.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

○こだわりが感じられてよかったです。紹介された本、早速買いました

○知力、体力、倫理観のバランスが大事で家庭や地域のつながりが必要で重要なんだとより感じた

○北海道の子供たちの現状というものが学力学習状況調査を基に分析されていて、その上で体験活動というものが、どのように大事であるかがわかってきました。自然体験だけでなく文化的、生活的体験も含まれるので枠にとらわれない事業展開をしていきたいと感じました

<1/10 16:00～ 講義「対象者理解」>

4 満足	19	95.0%
3 やや満足	1	5.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

- 自分は参加者の子供と接するとき偏った見方をすることが多いので気を付けてはいたのですが、今回講義を受けて、発達段階において子供たちが不安定なものとしてとらえることができ、ごく普通のことだと理解できたことが大きいです
- わかりやすかったです
- 今まで年齢的な特徴などを学んでこなかったもので、自分の感覚だけではなく傾向を知ることも大事だと実感しました
- 対象者を考えてプログラムを考えたり、接していくことの大切さを再認識しました

<1/11 9:00～ 講義・実技「自然体験活動の安全管理」>

4 満足	18	90.0%
3 やや満足	2	10.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

- 予防、装備、事前のチェック等もっと念入りにしようと思う
- 冬ならではの安全管理が分かってよかった
- 外に出られた心地よさがあふれました
- 自然体験活動を行う上で最も頭に入れておかないといけないことであり、最低限の知識として押さえておかななくてはならない。社会教育職員として人命救助の講習をやる必要があると感じた

<1/11 13:00～講義・実技「自然体験活動の技術」（野外炊飯による夕食兼）>

4 満足	20	100.0%
3 やや満足	0	0.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

- 協働のすばらしさに気づきました
- 冬ならではのことができてよかったです
- まきなどを使って炊飯できたらさらに楽しかったのかなと（使うことは少ないですが）
- 野外活動、夕食、ロープワーク最高でした
- ロープワークやイグルー（かまくらづくり）を行い、やはり事業は楽しむということが一番大事だと感じました。しかし楽しむために事前の危機管理や準備の必要性も改めて感じることができました。

<1/11 19:30～ 講義「自然体験活動の指導」 >

4 満足	17	85.0%
3 やや満足	3	15.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

○わかりやすく面白かったがおなか一杯の夜の時間帯はつらかった・・・

○外の活動の後で疲れてしまった

○授業自体すごく楽しかった

○少し疑問に思うこともあり、間が多く生まれたので良かったです

○指導者としての振る舞いやどういった意図でその事業を行っているかを明確にし行うことで参加者にも伝わるのがわかった。また指導者として参加者からどう見られているかを常に頭に入れ行動しなくてはならないと改めて感じる事ができた。

○講師の山田先生のおかげで夜の講義にもかかわらず、快適に学ぶことができた

<1/12 9:00～講義・実技「自然体験活動の特質」 >

4 満足	20	100.0%
3 やや満足	0	0.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

○色々な組織のご紹介や、既存事業のアレンジなど、面白い導入法やゲームを数多く体験を交えながら経験したことにより、自分の町ではちょっと変えてやってみようかなと思える内容でした

○一番活動として応用がききそうで良かったです

○自然学習の他に指導者として学びの導きも一緒に学びました

<1/12 13:00～>

「講習のまとめ」「履修認定試験」

4 満足	19	95.0%
3 やや満足	1	5.0%
2 やや不満	0	0.0%
1 不満	0	0.0%
計	20	100.0%

○お勉強時間ありがとうございます

(自由記述欄)

- 楽しかったです
- 駅までの送迎もあり有意義な研修となりました
- あっという間の3日間でそれぞれのコマでもっと講義をしてほしいくらい時間を早く感じた
- 野外での活動が楽しかったです
- 自分も楽しむことが大切だと感じました
- 野外炊飯とお知らせにもあり炭や薪を使うイメージできました。もう少しだけ何をするかがお知らせの時にわかると嬉しいです

10 事業の成果

(1) 事業背景の達成度

① 参加者数(養成者数)

定員30名に対する参加者数は、20名と66%に終わったため、達成が不十分であった。

② 参加者の満足度

「4 満足」が100%であり、目標は達成した。この点については、資格取得できることはアンケート回収時点では未定であるため、講義内容として提供した事項が、参加者のニーズを満たすものであったと推察される。

今後も今回同様、講義と演習のバランスを考えつつ、現場活動を意識した内容としていくことで対応したい。

③ 指導者への意欲、冬季体験活動の満足度

参加者の満足度が100%であったように、講義内容として提供した冬季体験活動の技術等については十分なものであったと考える。また、アンケートの自由記述からも指導者現場を意識して記述されている事項が多いことから達成度は高いと考えられる。

得た知識をもって現場での活動に生かしていくかどうか、指導現場に立てるかどうかは参加者の今後の意欲や、現場で参加者に求められるポジションなどにも関係してくるものである。現場での活躍の度合いを追求調査などで把握することや、何らかのフォローアップの場の設定を検討する必要がある。(例えば、事業への指導者ボランティアとして参画していただく場を設定する、演習の中で指導法などについてスキルアップを図る、指導法、対象者理解などに特化したフォローアップ事業を計画するなど)

<事業の指標に関する達成度>

- (4) 参加者数(養成者数) 20名(定員に対して60%)
- (5) 参加者の満足度 100%
- (6) 指導者活動への意欲、冬季体験活動の満足度 達成

11 事業の課題

(1) 指導者養成数

国立青少年教育振興機構中期計画において「自然体験活動指導者の養成を中期目標期間中(H28~32)に1,500人を養成する」としている。施設における1年の養成人員は概ね10名となるため、養成人員の目標は達成しているが、定員30名に対する参加者数

が20名と60%に終わったことは、今後の事業日程の設定時期や広報の手法について検討を要する点である。

事業開催時期については、前は秋の開催で30名定員を満たしている。単純に冬季であり、市町村での事業実施と重複したことから参加者が少なかったのか、事業への魅力が感じられなかったのか、広報の問題により知りえなかったのかについて、教育委員会、北海道内青少年教育施設などと連携し、参加しやすい開催時期について調査し、自然体験活動指導者の養成の必要性を伝えていく必要がある。

(2) 事業スケジュール

事業スケジュールの2日目の科目が、昼間に「技術」科目を6時間行った後に、「指導」科目を19時半から21時までとなることについて、前回は今回の事業でもアンケートで「屋外での長時間活動の後になるため、講義を聞くには厳しい時間帯である」旨の記載があった。

参加者が参加しやすい環境を整えるため、資格取得上の必要時間数を2泊3日で行うこと、当日自宅を出発しても余裕をもって開催時刻に間に合うように午後開始、終了後も当日中に帰宅できるように15時終了とした場合には、どうしても2日目の時間設定がハードとなる。

これを解消するためには、2日目の「指導」を1日目に移動し、開始を10時とする、または最終日に移動し、終了を17時とすることになる。

この2案のどちらかで対応できないか検討していきたい。

